



4 Windowsの セットアップ

起動監視機能の設定方法、初めて装置の電源をONにするときのセットアップ、OSを再インストールするときのセットアップ、LANの二重化の設定、ディスクの二重化の設定などについて記載しています。

セットアップを始める前に

セットアップを始める前に必ずお読みください。

本章では2通りのセットアップについて記載しています。

- 初めて電源をONにするときのセットアップ手順
- OSを再インストールするときのセットアップ手順

初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合の手順です。

本装置のハードディスクドライブには、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定、ハードディスクドライブの二重化(システムパーティションのみ)設定からOS、本装置が提供するソフトウェアがインストールされています。購入後、初めてセットアップされる場合はこちらのセットアップを行います。「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」(4-4ページ)にお読みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合の手順です。

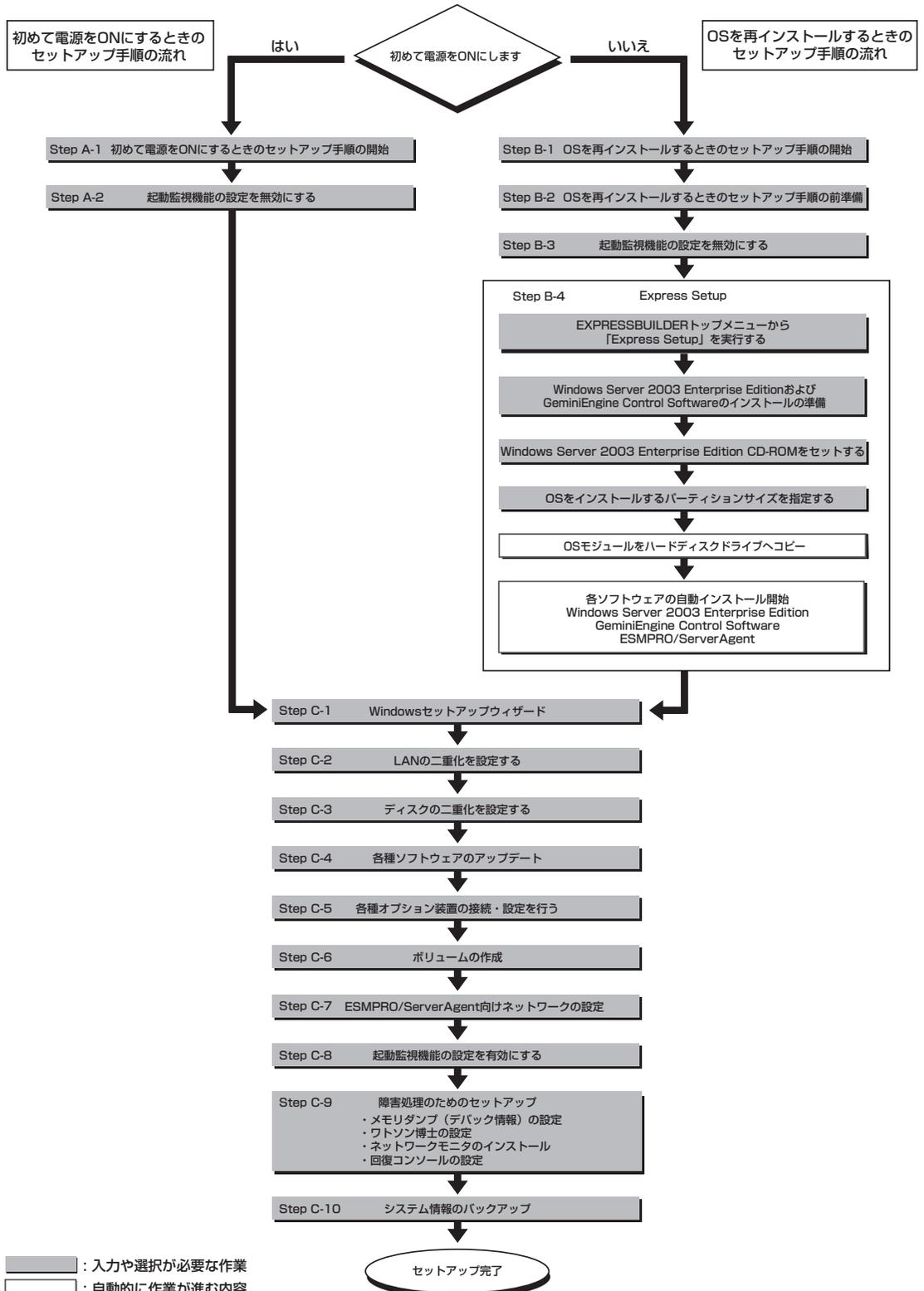
本装置ではEXPRESSBUILDERを使ってOSの再インストールを行います。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動したときに表示されるメニューの「Express Setup」の項目を選択することで実行されるExpress5800/ftサーバシリーズ独自のセットアッププログラムを「Express Setup」と呼びます。

「Express Setup」では、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows)、各種ユーティリティのインストールまでを自動でセットアップすることができます。

ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、こちらのセットアップを行います。「OSを再インストールするときのセットアップ手順」(4-10ページ)にお読みください。

セットアップの流れ

本装置のセットアップの流れを図に示します。



初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合は以下の手順を行ってください。

なお、PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページにおいて、最新のGeminiEngine Control Softwareを確認し、本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのバージョンが古い場合には、以下の手順によるセットアップ後、Webページに掲載されているアップデート手順に従ってシステムのアップデートを実施してください。

1. Step A-1～Step A-2を行う。
2. Step C-1～Step C-10を行う。



上記で示す方法以外のセットアップでは、本装置を正しくセットアップすることはできません。

Step A-1 初めて電源をONにするときのセットアップ手順の開始

購入後、初めて電源をONにする場合のセットアップ手順の開始です。
セットアップを開始する前に以下のものを準備してください。

- ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- ユーザーズガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM

「Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする」(次ページ)に進みセットアップを行ってください。

Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。

本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています(本機能は出荷時の設定で有効となっています)。

本装置の購入時にインストール済みのオペレーティングシステムをセットアップするときには監視機能の設定を無効にしてください。監視機能の設定を無効にしない場合はインストール済みのオペレーティングシステムのセットアップに失敗します。

ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、購入時にインストール済みのオペレーティングシステムは使用できなくなります。再インストールを行わなければ使用できません。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

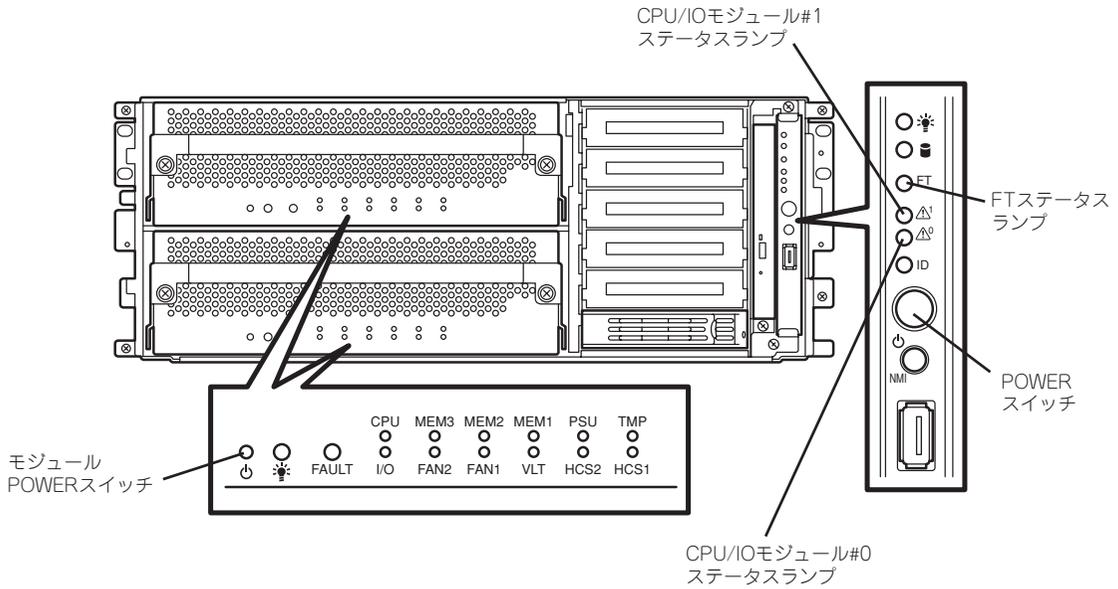
1. ディスプレイ装置および本装置に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

2. ラックマウントモデルの場合はフロントベゼルを取り外す(タワーモデルの場合はフロントドアを開く)。

3. 本装置の前面にあるPOWERスイッチを押す。



重要

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- POWERスイッチは爪を引っ掛けないようにまっすぐ押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、本装置は自己診断プログラム (POST) を実行して本装置自身を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧ください。POSTを完了するとWindows Server 2003が起動します。

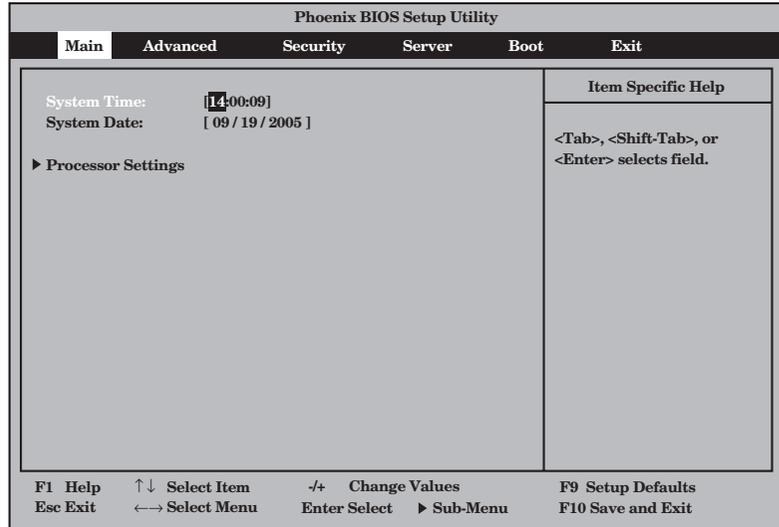
チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。別冊のユーザーズガイドを参照してください。

- ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to boot from Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

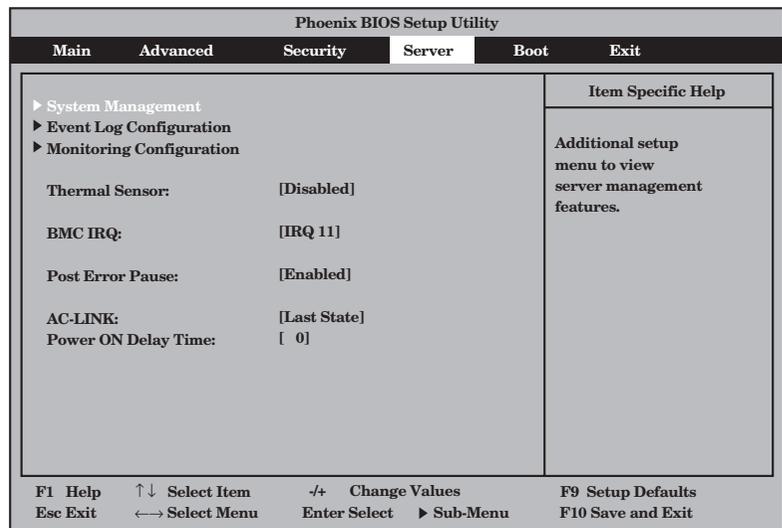
BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

<例>



- カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Server」を選択する。

Serverメニューが表示されます。



- カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Server	
Monitoring Configuration	Item Specific Help
FRB-2 Timer: [Enabled]	
Boot Monitoring: [Disabled]	
Option ROM Scan Monitoring: [Enabled]	
Option ROM Monitoring Time-out: [5]	
POST Pause Monitoring: [Enabled]	
POST Pause Monitoring Time-out: [3]	
F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit	

- カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

パラメータが表示されます。

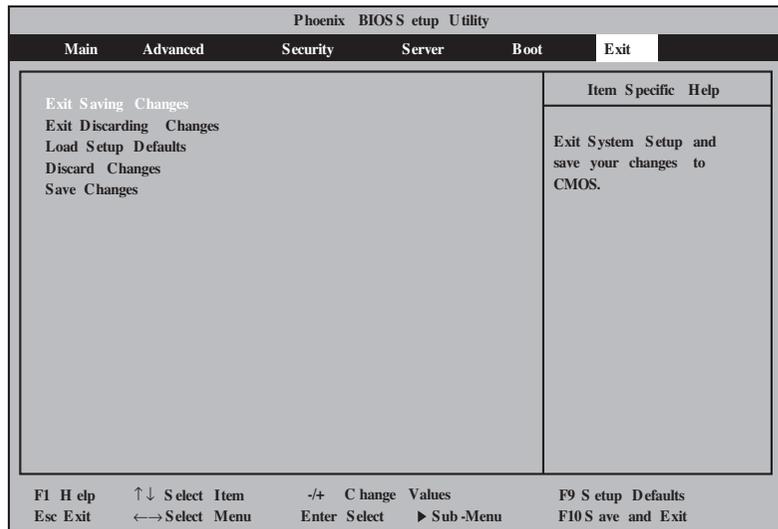
- パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Server	
Monitoring Configuration	Item Specific Help
FRB-2 Timer : [Enabled]	
Boot Monitoring : [Disabled]	
Option ROM Scan Monitoring : [Enabled]	
Option ROM Monitoring Time-out : [5]	
POST Pause Monitoring : [Enabled]	
POST Pause Monitoring Time-out : [3]	
F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit	

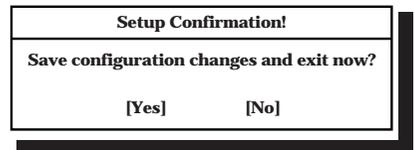
9. <ESC>キーを押して「Server」メニューに戻り、カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。

Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Exit Saving Changes」を選択し、<Enter>キーを押す。

確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。

設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。

以上で切り替えは完了です。



再起動後にWindowsのセットアップウィザード画面が表示されます。「Step C-1 Windows セットアップウィザード」に進んでセットアップを続けます。
次の手順はStep C-1(4-26ページ)以降になります。

Step C-1「Windowsセットアップウィザード」(4-26ページ)へお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合は以下の手順を行ってください。



OSを再インストールするときのセットアップ手順ではシステムディスクをフォーマットします。

PP・サポートサービスご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページにおいて、最新のGeminiEngine Control Softwareを確認し、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのバージョンが古い場合には、以下の手順によるセットアップ後、Webページに掲載されているアップデート手順に従ってシステムのアップデートを実施してください。

1. Step B-1～Step B-4を行う。
2. Step C-1～Step C-10を行う。

Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始

オペレーティングシステム再インストールの開始です。



「OSを再インストールするときのセットアップ手順」では、再インストールに使用するディスクの全領域がフォーマットされるため、ディスク上のデータはすべて消去されます。再インストールに使用するディスクに、OSを含むシステムパーティション以外のデータパーティションが存在する場合には、OSの再インストールを行う前に、必ずデータパーティション内の必要なデータのバックアップをとった上で、「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を開始してください。



PP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のサービスパックへの対応状況をPP・サポートサービスのWebページから確認することができます。

Windows Server 2003のインストールには、以下のものがが必要です。

- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- GeminiEngine Control Software UPDATE CD-ROM
本CD-ROMは、GeminiEngine Control Softwareを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれるソフトウェアが最新の場合には添付されません)。
- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition with SP1 日本語版 CD-ROM
- ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- ユーザーズガイド



PP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のGeminiEngine Control Softwareのリリース状況を確認し、最新バージョンのGeminiEngine Control Software UPDATE CD-ROMを利用してください。

セットアップ手順を進める前に、OSをインストールするパーティションのサイズを決定してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned} \text{インストールに必要なサイズ} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\ \text{インストールに必要なサイズ} &= 3500\text{MB(Windows Server 2003} \\ &\quad \text{with Service Pack 1)} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} &= \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\ \text{ダンプファイルサイズ} &= \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{aligned}$$



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。



搭載メモリサイズは、CPU/IOモジュール1つに実装されている合計サイズです。

例えば、搭載サイズが1GBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$3500\text{MB} + (1024\text{MB} \times 1.5) + (1024\text{MB} + 12\text{MB}) = 6072\text{MB}$$

となります。



Express Setupで指定可能な最小パーティションサイズは3072MBです。自動インストールの動作のため、3072MB以上のパーティションサイズが必要なため、3071MB以下を指定することはできません。

Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備

Express Setup開始前に、以下の前準備を行ってください。前準備を行わない場合、セットアップが正しく行われません。

Express5800/ftサーバ本体の準備

本装置の電源がOFFの状態です。以下の前準備を行ってください。

1. 本装置の準備を行う。

次に示す準備を行ってください。

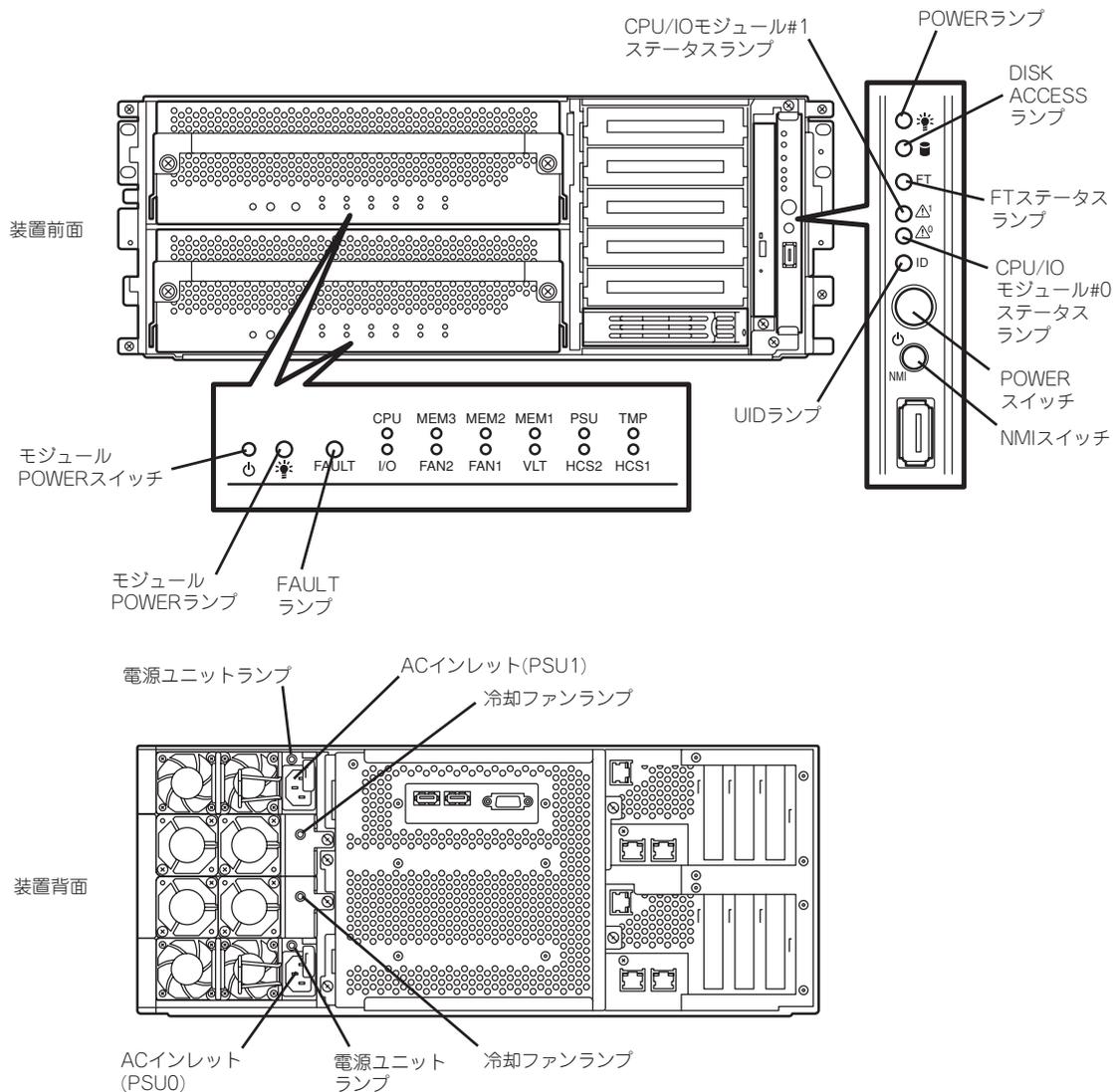
- 両系のモジュールを実装する。
- ハードディスクドライブはスロット0に1台のみ搭載する。
- LANケーブルをすべて取り外す。
- テープ装置などの外部SCSI機器のSCSIコネクタから取り外す。

重要

指定のスロット以外には、1台もハードディスクドライブを搭載しないでください。ハードディスクドライブが複数台セットされている場合には、インストール先とするハードディスクドライブを特定できません。

2. モジュール#0からのインストールを準備する。

作業や確認に必要な部品の位置は次のとおりです。



<AC電源がONの場合>(電源コードがコンセントに接続されている場合)

(1) 本装置のPOWERランプを確認する。

- POWERランプが点灯している場合はOSをシャットダウンさせ、POWERランプの消灯後にAC電源コードを抜く。
- POWERランプが消灯している場合はAC電源コードを抜く。

(2) AC電源がOFFの場合の操作を行う。

<AC電源がOFFの場合>(電源コードがコンセントに接続されていない場合)

以下の順番で本装置に電源コードを接続してください。

- (1) ACインレット (PSU0) に電源コードを接続する。
- (2) ACインレットA (PSU1) に電源コードを接続する。
- (3) 各モジュールのFAULTランプが消灯していることを確認する。

以上で前準備は完了です。

Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。

本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています。

再インストールする際、監視機能の設定を無効にしてください。

監視機能の設定を無効にしない場合、再インストールが正しくできません。ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、初めから再インストールを行わなければ使用できません。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

1. ディスプレイ装置および本装置に接続している周辺機器の電源をONにする。

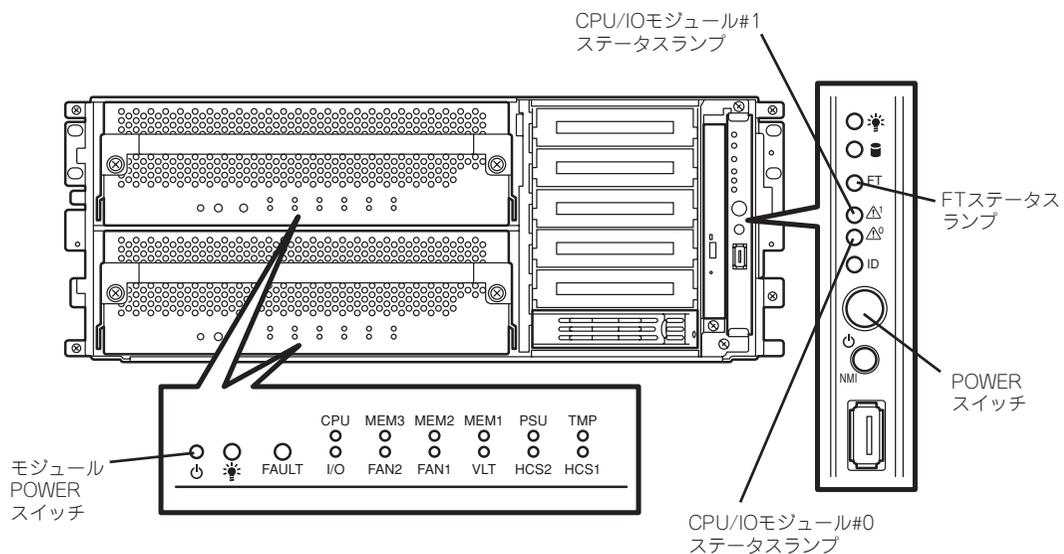


チェック

無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

2. ラックマウントモデルの場合はフロントベゼルを取り外す(タワーモデルの場合はフロントドアを開く)。

3. 本装置の前面にあるPOWERスイッチを押す。



🔑 重要

「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、本装置は自己診断プログラム (POST) を実行して本装置を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧ください。

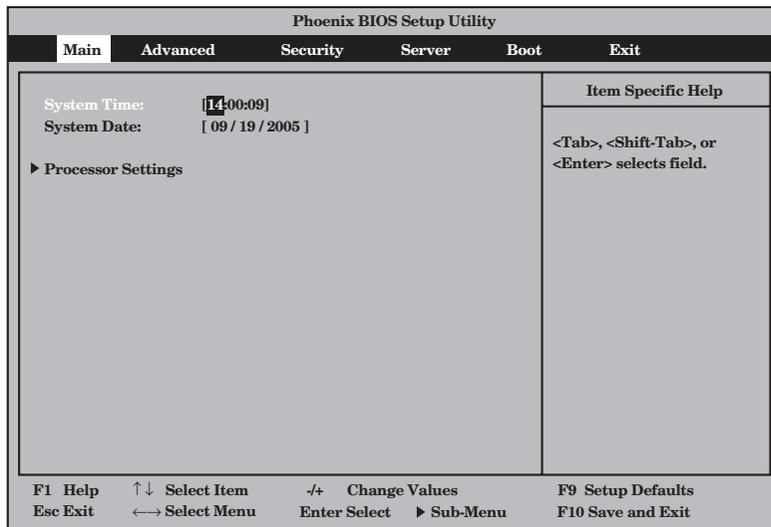
✓ チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。別冊のユーザーズガイドを参照してください。

- ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to boot from Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

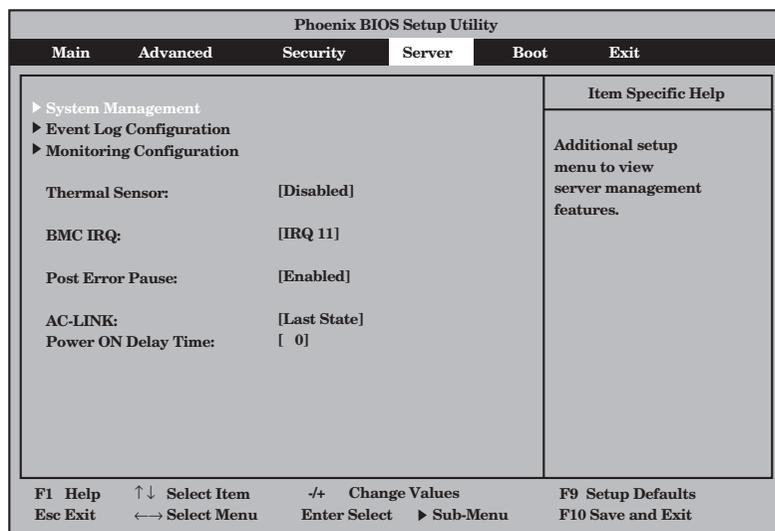
BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

<例>



- カーソルキー(←→)キーか<←>キーを押して、「Server」を選択する。

Serverメニューが表示されます。



6. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility			
		Server	
Monitoring Configuration		Item Specific Help	
FRB-2 Timer:	[Enabled]		
Boot Monitoring:	[Disabled]		
Option ROM Scan Monitoring:	[Enabled]		
Option ROM Monitoring Time-out:	[5]		
POST Pause Monitoring:	[Enabled]		
POST Pause Monitoring Time-out:	[3]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select	F10 Save and Exit
		▶ Sub-Menu	

7. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

パラメータが表示されます。

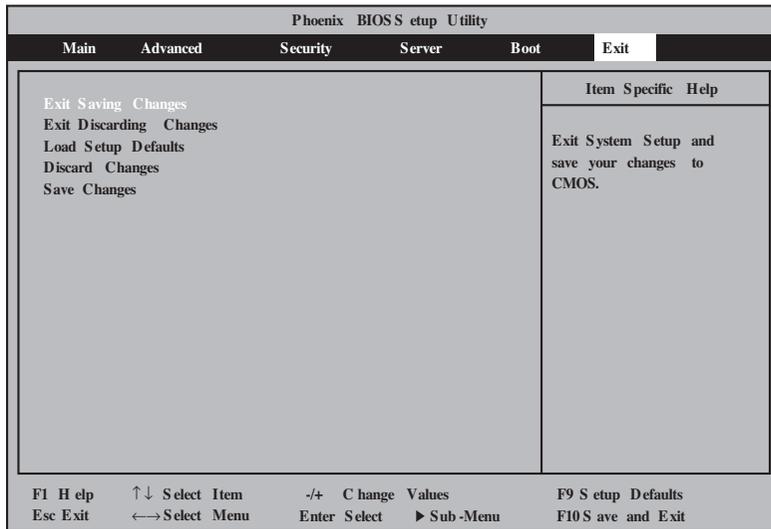
8. パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。

Phoenix BIOS Setup Utility			
		Server	
Monitoring Configuration		Item Specific Help	
FRB-2 Timer :	[Enabled]		
Boot Monitoring :	[Disabled]		
Option ROM Scan Monitoring :	[Enabled]		
Option ROM Monitoring Time-out :	[5]		
POST Pause Monitoring :	[Enabled]		
POST Pause Monitoring Time-out :	[3]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select	F10 Save and Exit
		▶ Sub-Menu	

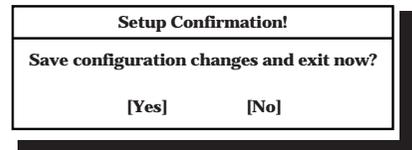
9. <Esc>キーを押し、Serverメニューへ戻り、カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押し、「Exit」を選択する。

Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押し、「Exit Saving Changes」を選択し、<Enter>キーを押す。

確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。

設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。

以上で切り替えは完了です。



オペレーティングシステムの再インストールをする場合は、再インストールの準備のためにいったん本装置の電源をOFFにしてください。その後、次ページの「Step B-4 Express Setup」に進んでセットアップを続けます。

Step B-4 Express Setup

EXPRESSBUILDERの「Express Setup」機能を使ってセットアップします。

「Express Setup」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からオペレーティングシステム(Windows Server 2003)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なくセットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、Express Setupを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。



Express Setupは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはExpress Setupの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

Express Setupは、この情報を基にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本体のそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にセットアップすることができます。

- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくこと、Express Setupの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、Express Setupの途中で作成・修正することもできます)。本装置の他にWindows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

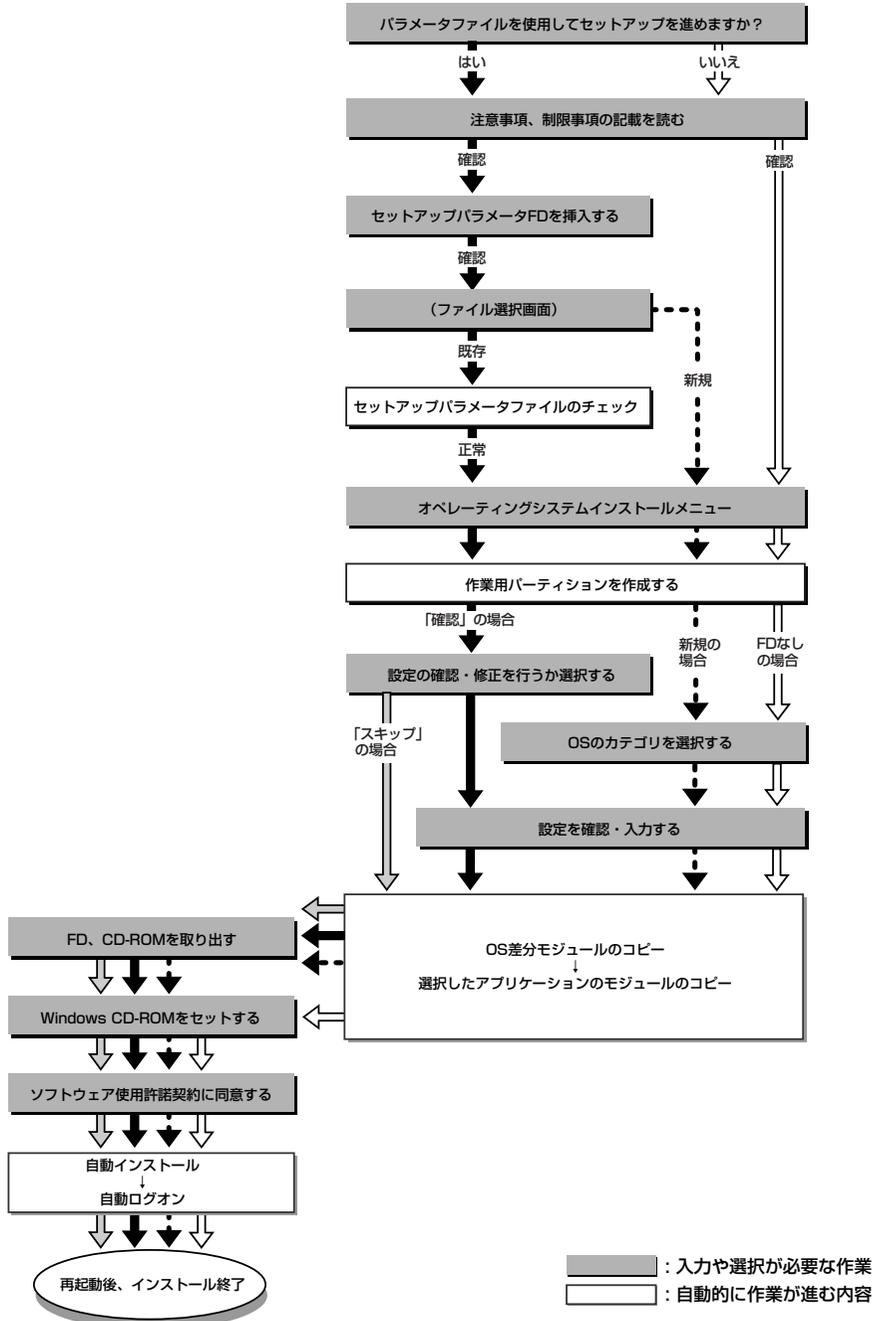
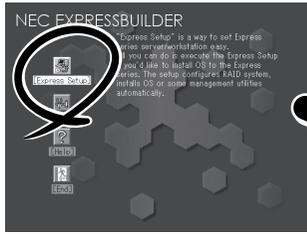
- 本装置ではFDドライブを標準添付しておりません。セットアップパラメータFDを利用する場合は、オプションのFDドライブをお客様でご用意ください。

- **ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて**

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

セットアップの流れ

Express Setupの流れを図に示します。



セットアップの手順

Express Setupでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル(パラメータファイル)としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。



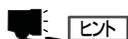
パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。

再インストールするときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。



システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート～サービスパックの適用～」(5-2ページ)を行ってください。

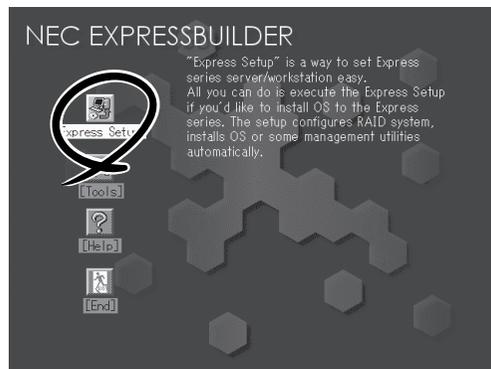
1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。



OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

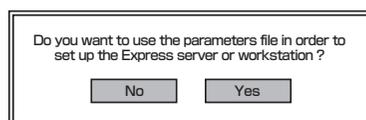
2. 本装置のCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [Express Setup]を選択する。

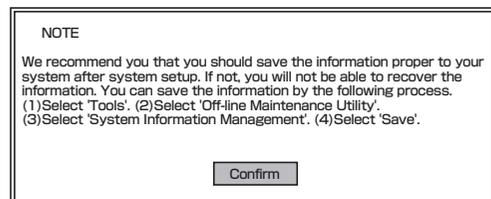


5. [Do you want to use the parameters file in order to set up the Express server or workstation ?]というメッセージが表示される。

パラメータファイルを使用する場合は[Yes]を、使用しない場合は[No]を選択してください。



6. [NOTE]が表示されるので、表示内容をよく読んでから[Confirm]を選択する。

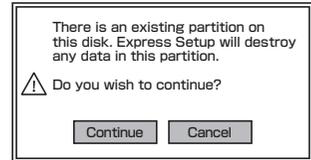
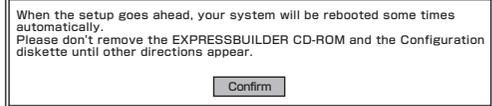


7. Express Setupでの注意事項が表示される。

表示内容をよく読んでから[Confirm]を選択してください。



ディスクに何らかのOSがインストールされている場合、インストールを続行するかを確認するメッセージが表示されます。セットアップを続けるには[Continue]を選択してください。

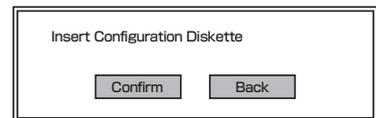


8. パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されるので、フロッピーディスクをセットして[Confirm]を選択する。

パラメータファイルを使用しない場合は、このメッセージは表示されません。手順9へ進んでください。

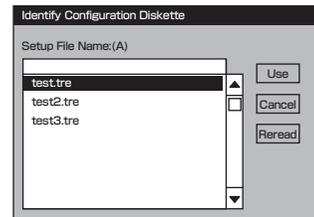


ここでセットしたフロッピーディスクは、指示があるまで取り出さないでください。



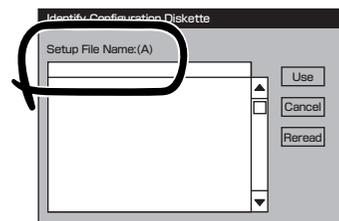
【既存のパラメータファイルを使用する場合】

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。インストールに使用するパラメータファイルを選択し、[Use]を選択する。



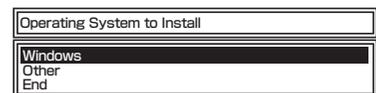
【空きフロッピーディスクをセットした場合】

- ① <A>キーを押す。
入力ボックスが表示されます。
- ② ファイル名を入力する。



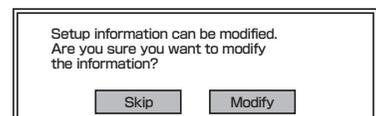
9. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから[Windows]を選択します。



10. セットアップ情報の修正確認メッセージが表示されるので、パラメータを確認する場合は[Modify]を、確認せずにそのままインストールする場合は、[Skip]を選択する。

[Modify]を選択 →手順11へ進む
[Skip]を選択 →手順15へ進む



11. [Basic Information]画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから<=>キーを押す。(画面中の[Target Machine]は機種によって表示が異なります。)

- <=>キー : 次の画面に進みます。
<=<>キー : 1つ前の画面に戻ります。
<↑><↓>キー : メニューの選択に使用します。
<F1>キー : ヘルプを表示します。
<ENTER>キー : [OK]の選択に使用します。各項目の決定に使用します。
<ESC>キー : [Cancel]の選択に使用します。

Basic Information	
Target Machine	Express5800/xxx
Operating System to Install	Windows Server 2003 Standard/Ent
OS Language	Japanese
System Partition	Create New Partition
Partition Size (Entire Area=)	12288
Convert File System to NTFS	Yes
Apply Service Pack	No
Installation Directory	Windows

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。(4-11ページ参照)
- [System Partition]で「Use Existing Partition」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。
- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(4-19ページ参照)。ダイナミックディスクの場合は[System Partition]で「Use Existing Partition」を選択しないでください。
- システムパーティションのファイルシステムはNTFSで固定です。
- [System Partition]で「Use Existing Partition」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

12. [User Information]画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから<=>キーを押す。

- <=>キー : 次の画面に進みます。
<=<>キー : 1つ前の画面に戻ります。
<↑><↓>キー : メニューの選択に使用します。
<F1>キー : ヘルプを表示します。
<ENTER>キー : [OK]の選択に使用します。各項目の決定に使用します。
<ESC>キー : [Cancel]の選択に使用します。

User Information	
User Name	
Corporate Name	
Time Zone	(GMT + 09:00 Osaka, Sapporo, Tokyo)
Keyboard Layout	Use Default

重要

- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

13. [Role of Computer]画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから<F9>キーを押す。(画面右下に[OK]ボタンが表示されていない場合は<->キーを押す。)

- <F9>キー : 設定を終了します。
 <->キー : 追加の設定画面に進みます。
 <←>キー : 1つ前の画面に戻ります。
 <↑><↓>キー : メニューの選択に使用します。
 <F1>キー : ヘルプを表示します。
 <ENTER>キー : [OK]の選択に使用します。各項目の決定に使用します。
 <ESC>キー : [Cancel]の選択に使用します。

<->キーを押すと、さらにいくつかの設定画面に進みます。以降、設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- <->キーで次の画面に進んだ場合、この画面に戻っても[OK]ボタンは表示されません。
- 既存のパラメータファイルを読み込んだ場合、[OK]ボタンは表示されません。
- Express Setupでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windowsの起動後、コントロールパネルから設定してください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- セットアップパラメータを入力する場合、次の文字数以下で入力してください。(2バイト文字は2文字で換算します)

項目	設定値	文字数
新規ユーザの作成	ユーザ名	19
	グループ名	20
	フルネーム	63
	説明	47
新規グループの作成	グループ名	20
	説明(グループ名)	47

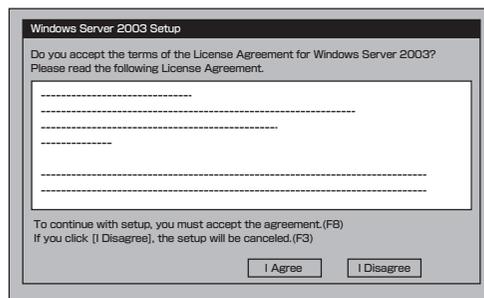
14. セットアップ情報の修正終了の確認メッセージが表示されるので、終了する場合は[OK]を、設定画面に戻る場合は[Cancel]を選択する。

- <ENTER>キー : [OK]の選択に使用します。
 <ESC>キー : [Cancel]の選択に使用します。

15. 追加するアプリケーションをインストールする。

Express Setupに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

16. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出します。
17. Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
[Windows Server 2003 Setup]画面が表示されます。
18. Windows Server 2003に同梱されているソフトウェア使用許諾契約書をよく読んでから、同意する場合は<F8>キーを押す。
同意しない場合は<F3>キーを押す。



重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。

Windows Server 2003と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

Step C-1 Windowsセットアップウィザード

<初めて電源をONにするときのセットアップの場合>

直前の操作が「Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする」の場合は、次の手順で作業を進めてください。

1. 再起動後、セットアップウィザードの開始画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。
以降、ユーザー名などの設定画面が次々と表示されます。
ウィザードに従って操作を行い、必要な設定をしてください。
ウィザードの操作完了後、自動的に再起動されます。

重要

BIOSの「Boot Monitoring」の設定を有効にする場合は本ユーザーズガイドに従い、「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(4-39ページ)で実施してください。

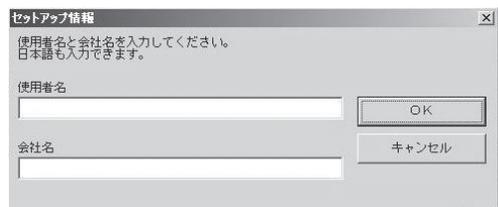
2. 再起動後、管理者(Administrator)権限のユーザ名でログオンする。

引き続き「Step C-2 LANの二重化を設定する」へ進んでください。

<OSを再インストールするときのセットアップの場合>

直前の操作が「Step B-4 Express Setup」の場合は、次の手順で作業を進めてください。

1. ログインの後 セットアップ情報の画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行う。
2. [OK]をクリックする。



ヒント

- インストール中にスクリーンセーバが起動する場合がありますが、手動でログオンしてください。
- 上記の画面が表示されていない場合は、システムを再起動してください。再起動後、Express Setupを続行され、上記の画面が表示されます。

引き続き「Step C-2 LANの二重化を設定する」へ進んでください。

Step C-2 LANの二重化を設定する

Express5800/ftサーバでは、CPU/IOモジュール上に標準で搭載されている「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection」および拡張PCIスロット「Intel(R) PRO/1000 MT Server Adapter」と「Intel(R) PRO/1000 MF Server Adapter」を使用してLANの二重化を構築します。

概要

LANの二重化には以下の2種類があります。

- **アダプタ フォルト トレランス(AFT)**

アダプタ フォルト トレランスとは複数のLANコントローラを同一LAN(同一セグメント)上に存在させることによりプライマリコントローラが故障した場合、即座にバックアップコントローラに切り替え運用を継続させる機能です。

- **アダプティブ ロード バランシング(ALB)**

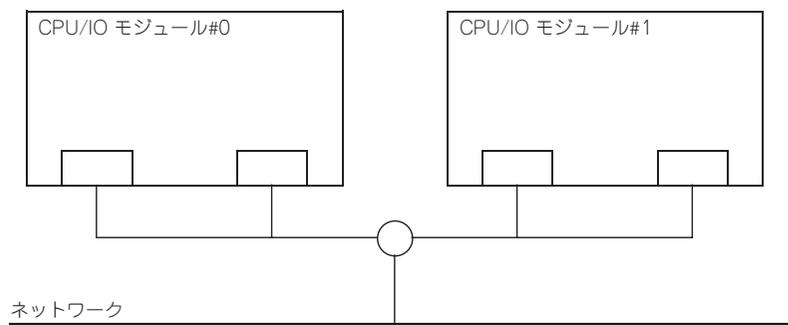
アダプティブ ロード バランシングとは複数のLANコントローラを同一ハブに接続し、送信を分散させることによりサーバからの送信スループットを向上させる機能です。デフォルトで受信ロードバランシング(RLB)が有効になっており、RLBが有効の場合には受信スループットも向上します。

本装置における二重化のルール

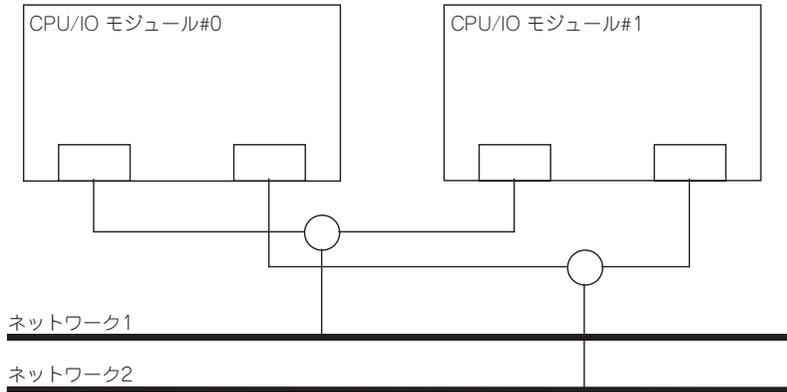
本装置では必ずネットワークの二重化設定を行ってください。

また、二重化を構築するときには必ずCPU/IOモジュール#0のアダプタとCPU/IOモジュール#1のアダプタを1つずつ使用してください。

例1) 全てのアダプタを使用して耐用性を高めた二重化を設定する。



例2) 複数LAN接続に対応した二重化を設定する。



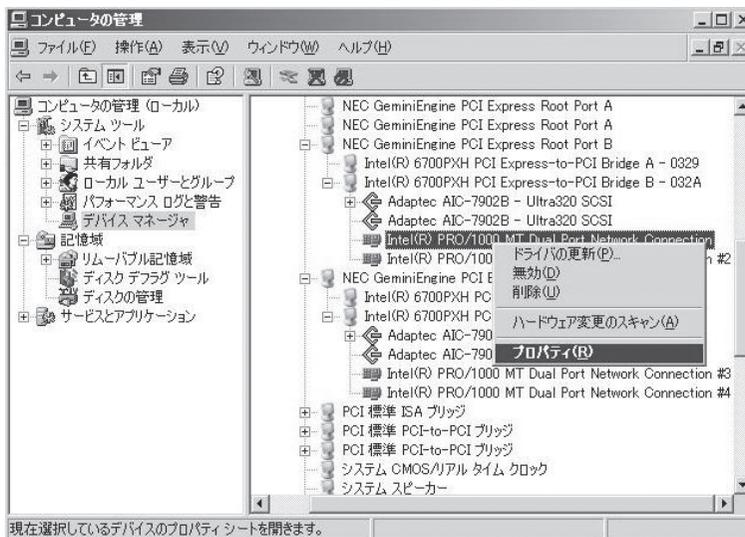
二重化の設定

二重化の設定方法を以下に示します。

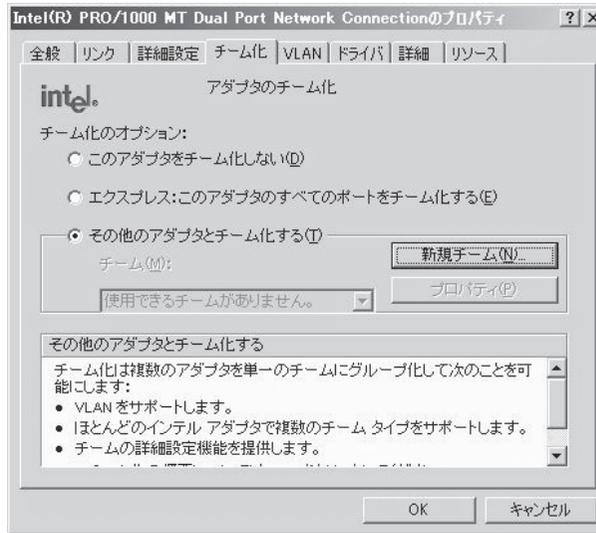
以降、「本サーバにおける二重化のルール」で示した例1について二重化の設定方法を説明します。

二重化の設定には管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

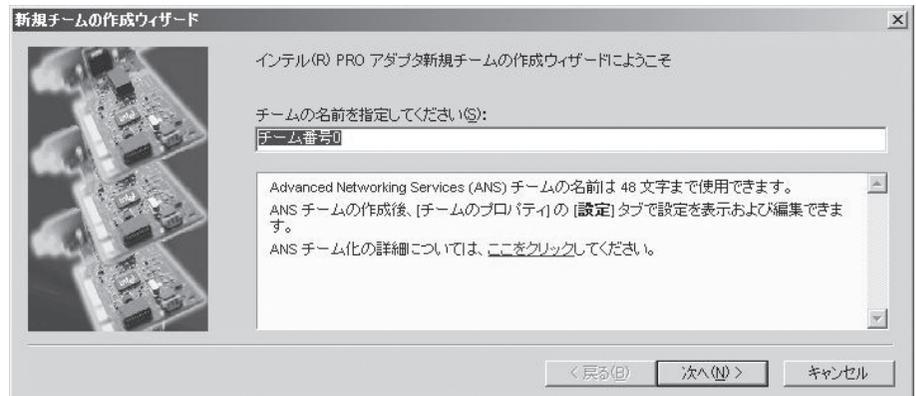
1. デバイスマネージャを起動する。
2. 対象ネットワークアダプタを1つ選択し[右クリック]で表示されるメニューから[プロパティ]を選択してプロパティ画面を表示する。



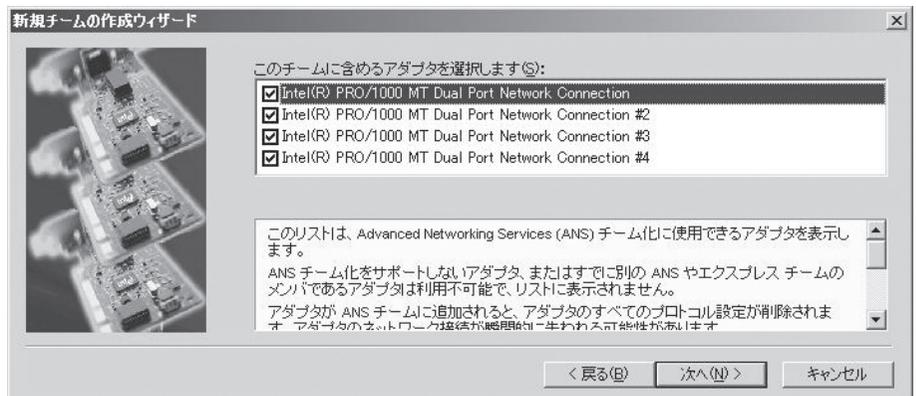
3. プロパティ画面の[チーム化]タブを選択する。[その他のアダプタとチーム化する]のラジオボタンをチェックしてから[新規チーム]をクリックする。



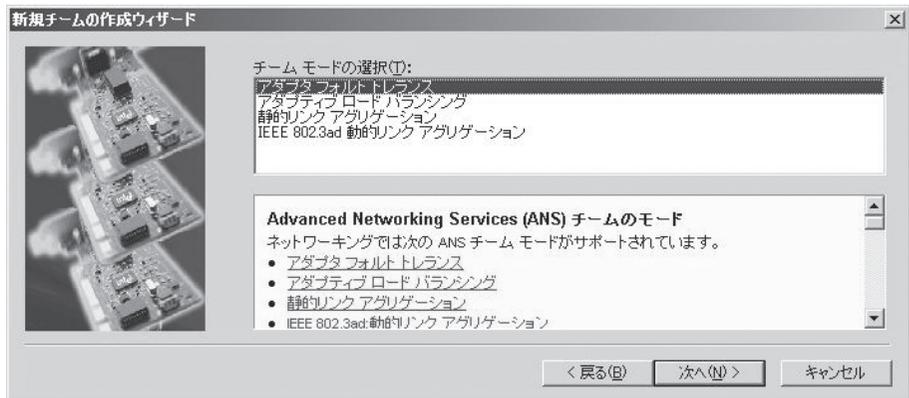
4. チーム名を入力して[次へ]をクリックする。



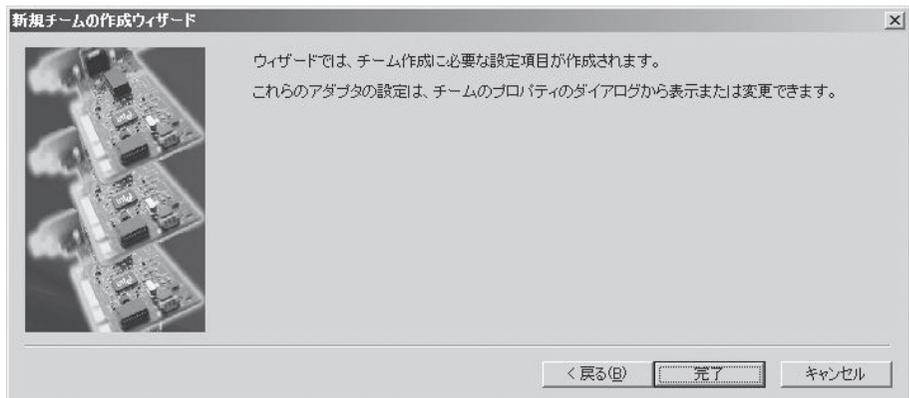
5. チームに含めるアダプタのチェックボックスをチェックし、[次へ]をクリックする。



6. チームモードとしてアダプタ フォルト トレランスまたはアダプティブ ロード バランシングを選択する。(通常はアダプタ フォルト トレランスを選択する)
[次へ]をクリックする。



7. [完了]をクリックする。



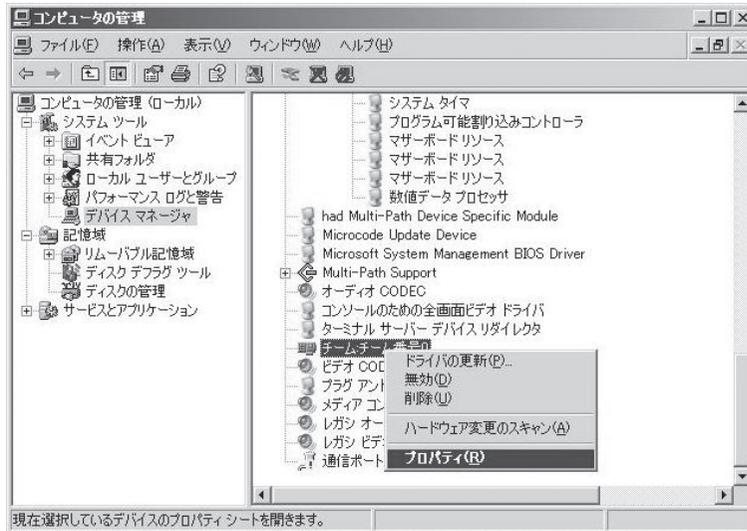
8. コマンドプロンプトを立ち上げipconfig /allで設定したチームアダプタの物理MACアドレスを確認する。

```

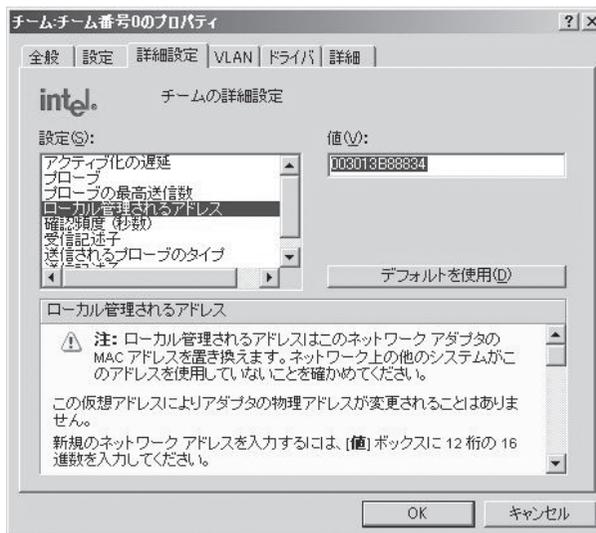
Connection-specific DNS Suffix . . . : 
Description . . . . . : チーム:チーム番号0
Physical Address. . . . . : 00-30-13-B8-88-34
DHCP Enabled. . . . . : Yes
Autoconfiguration Enabled . . . . . : Yes

```

- 設定したチームアダプタを選択し、[右クリック]で表示されるメニューから[プロパティ]を選択してプロパティ画面を表示する。



- プロパティ画面の[詳細設定]タブを選択する。[設定]リストボックスから[ローカル管理されるアドレス]を選択してから[値]テキストボックスに調べておいたチームアダプタのMACアドレスを入力し[OK]をクリックする。



Step C-3 ディスクの二重化を設定する

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」(4-4ページ)を実施している場合は、「Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-35ページ)へ進んでください。
本装置の出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっております。

本装置では、「ディスクの管理」によりディスクの二重化を行い、データの保全を図ります。
各手順を参照し、必ずディスクの二重化を設定してください。



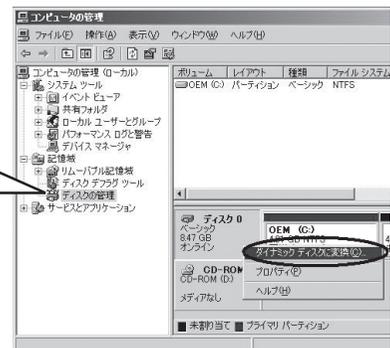
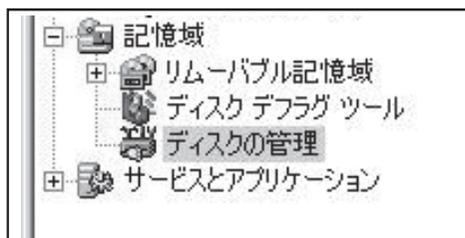
「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、ディスクの二重化は設定してありますので、この作業は必要ありません。「Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-35ページ)へお進みください。

ディスクの管理によるディスク二重化手順



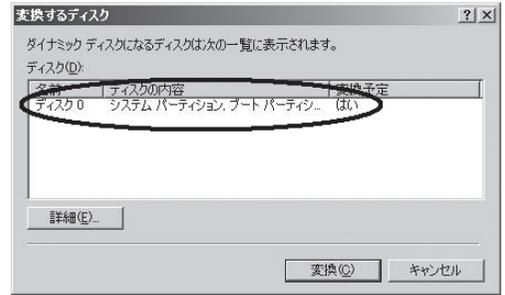
- この手順を実行するには、管理者またはAdministratorグループのメンバとしてログインしなければなりません。
- OSインストール時だけでなく、以降パーティションを作成する際も必ず同様にミラーリングを行ってください。
- ミラーのためのディスクは、必ずシステムパーティションがあるディスクをダイナミックにアップグレード後に、対応したスロットにセットしてください。アップグレードする前にディスクはスロットにセットしないでください。
- ミラーを設定するディスクは、ディスクのターゲットIDが所定のもので設定してください。詳細については、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照してください。

1. [スタート]–[管理ツール]–[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
2. コンソールツリーで[記憶域]配下の[ディスクの管理]をクリックする。
3. 右パネルにハードディスクドライブの一覧を表示させ、システムがインストールされているディスクを右クリックし、[ダイナミックディスクに変換]をクリックする。



- 変換するディスクがシステムをインストールしたディスクであることを確認し、[変換]をクリックする。

ダイナミックにアップグレードする際、「前のWindowsを起動できない」や「強制的にマウントを解除」のメッセージが表示されますが、[はい]をクリックして、再起動してください。
 その場合、複数回再起動を要求された場合は、指示に従って再起動をしてください。



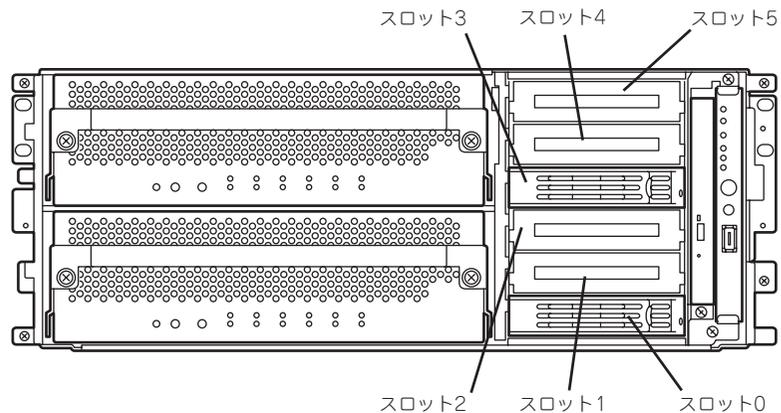
- 再起動後、再び[ディスクの管理]を表示し、ミラーボリュームを作成するためのディスクをセットする。

重要

ディスクのステータスが「初期化していない」の場合には、「初期化していない」ディスクで右クリックして初期化を実施してください。

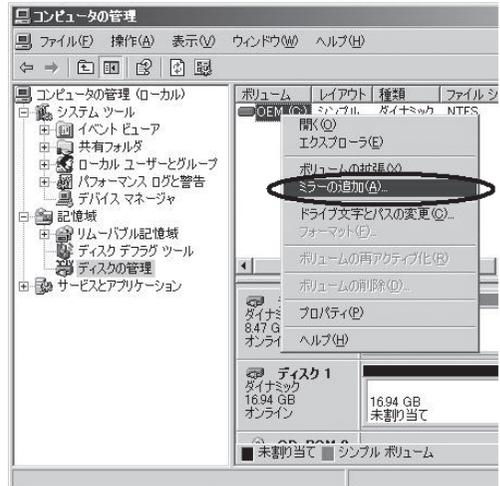
[異形式]と表示された場合は、[ベーシックディスクに戻す]を実行した後、[ダイナミックディスクに変換]を実行してください。

ミラーリングするディスクは必ず対応したスロットにセットする必要があります。スロット0とスロット3、スロット1とスロット4、スロット2とスロット5のディスクの組みになるようにしてください。詳細については別冊のユーザーズガイドの「ディスクの操作」を参照してください。



ミラーリング処理に対応するスロット

6. セットしたディスクがダイナミックディスクではない場合は、ディスクを右クリックし、「ダイナミックディスクに変換」を実行する。
7. ミラーを作成するダイナミックディスクのボリュームを右クリックし、[ミラーの追加]をクリックする。



重要

- [ミラーの追加]をクリックすると、[論理ディスクマネージャ]ダイアログボックスが表示されますが問題ありませんので、[OK]をクリックしてください。
- ミラーの生成中に再起動するとミラーが完了しません。ミラーの処理が完了するまでは再起動しないでください。



ヒント

ミラーの生成には、ボリュームの大きさにより10GBにつき約20分かかります。

8. ミラーリングが始まったことを確認する。

ディスク	タイプ	容量	パーティション	状態	使用済み
ディスク 0	ダイナミック	16.94 GB	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	再同期中: (1%) (システム)	12.94 GB
	オンライン				未割り当て
ディスク 1	ダイナミック	16.94 GB	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	再同期中: (1%) (システム)	12.94 GB
	オンライン				未割り当て

再同期中は、該当ディスクのランプとDISK ACCESSランプがアンバー色と緑色で交互に点滅します。

表示が「再同期中」から「正常」に変化したらミラーは完了です。

ディスク	タイプ	容量	パーティション	状態	使用済み
ディスク 0	ダイナミック	16.94 GB	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	正常 (システム)	12.94 GB
	オンライン				未割り当て
ディスク 1	ダイナミック	16.94 GB	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	正常 (システム)	12.94 GB
	オンライン				未割り当て

Step C-4 各種ソフトウェアのアップデート

PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページを参照し、アップデートモジュールがある場合は、アップデートモジュールを適用してください。GeminiEngine Control Software UPDATE CD-ROMを利用する場合は、「GeminiEngine Control Softwareのインストール」(6-13ページ)を参照して、適用を行ってください。

Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う

本体装置へ接続するオプションPCIボードおよび周辺装置がある場合は、本体の電源をOFFにし、別冊のユーザズガイドの「PCIボード」および装置の説明書に従って接続してください。



「初めて電源をONにするときのセットアップ」を実施している場合は、「ビルド・トゥ・オーダー」以外で購入されたオプションのPCIボード及び周辺装置がある場合にそれらの接続を行います。

搭載メモリが4GB以上の場合には、BOOT.INIファイルに/PAEスイッチを指定する必要があります。/PAEスイッチを指定しなかった場合、Windowsシステムは、4GB以上の領域を利用しません。

指定の方法については、マイクロソフト サポート技術情報を確認してください。

BOOT.INIファイルはC:¥に存在します。エクスプローラの「フォルダオプション」-「表示」タブ内の「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択することでエクスプローラ上に表示されます。

BOOT.INIが以下のような場合の修正例を示します。

(修正前)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect
```

(修正後)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect /PAE
```

LANおよびディスクを増設した場合は、二重化設定を行います。詳しい手順については「Step C-2 LANの二重化を設定する」(4-27ページ)および次の「Step C-6 ボリュームの作成」を参照してください。

Step C-6 ボリュームの作成

本装置では、すべてのボリュームにおいてミラーを作成する必要があります。システムパーティションが格納されるボリューム以外で新規にボリュームを作成する場合には、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成します。

ボリュームの作成およびミラーの方法については、Windowsのオンラインヘルプおよび「Step C-3 ディスクの二重化を設定する」(4-32ページ)を参照してください。



ボリュームの作成はシステムの運用が開始された後でも可能です。

ボリュームを作成する場合には、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成します。

Step C-7 ESMPRO/ServerAgent向けのネットワークの設定

ESMPRO/ServerAgent は、本装置を連続稼働させるために、必要であり、本装置購入時にすでにインストールされております。また、再インストールの際には自動的にインストールされます。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはSNMPの設定が必要です。

<SNMPサービスの設定変更>

1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
3. サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。
「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

重要

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを入力します。
- ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。

5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先のESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

重要

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - 「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、ESMPRO/ServerAgentをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

 **重要**

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

7. ネットワークの設定を終了する。

 **重要**

- OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。
- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする

システム運用上必要な場合は「起動監視機能の設定を無効にする」で切り替えた「Boot Monitoring」の設定を有効にします。Step A-2、もしくはStep B-3「起動監視機能の設定を無効にする」(4-5ページ、もしくは4-14ページ)を参照して適当な時間に設定してください。(Defaultは10分)

Phoenix BIOS Setup Utility	
Server	
Monitoring Configuration	Item Specific Help
FRB-2 Timer: [Enabled]	
Boot Monitoring: [Disabled]	
Option ROM Scan Monitoring: [Enabled]	
Option ROM Monitoring Time-out: [5]	
POST Pause Monitoring: [Enabled]	
POST Pause Monitoring Time-out: [3]	

F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save and Exit

Step C-9 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本装置内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

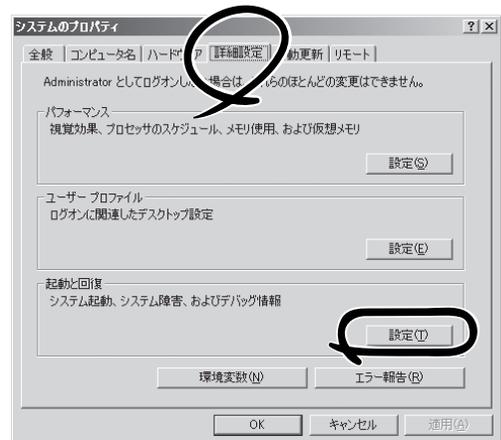


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。
- OSのSTOP エラーなどが発生した場合、システムの状態によっては、まれにクイックダンプ機能に代わり、通常のダンプ機能が動作する場合がありますが、保存されるメモリのダンプファイルはクイックダンプ機能と同等の障害解析が可能です。

次の手順に従って設定します。

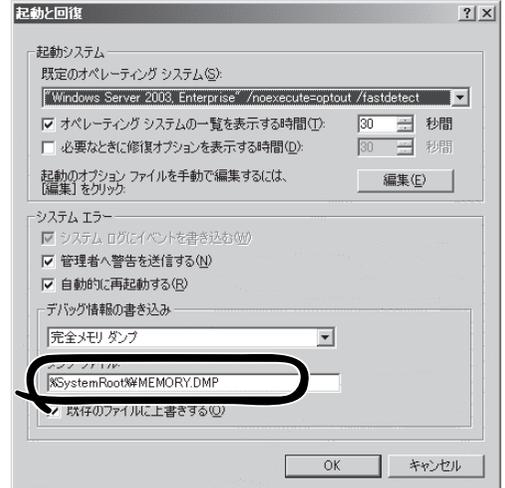
1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\MEMORY.DMP

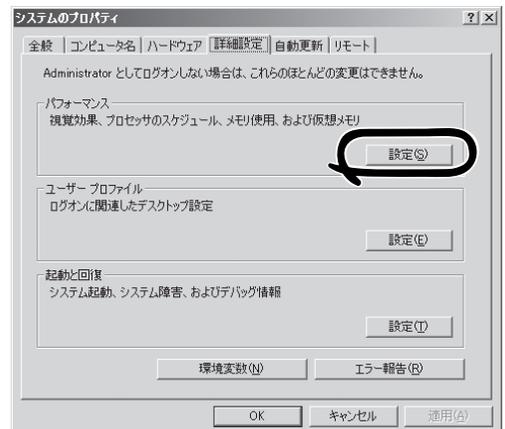


重要

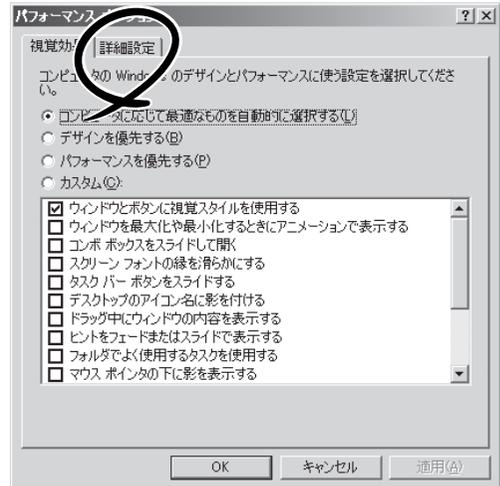
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。クイックダンプ機能は「完全メモリダンプ」を指定した場合に有効となります。「完全メモリダンプ」以外を指定した場合は、OS標準のダンプ機能が動作します。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。
- OSのSTOP エラーなどが発生した場合、システムの状態によっては、まれにクイックダンプ機能に代わり、通常のダンプ機能が動作する場合がありますが、保存されるメモリのダンプファイルはクイックダンプ機能と同等の障害解析が可能です。
- 特に必要のない限り、本装置では[起動と回復] - [システムエラー] - [自動的に再起動する] にチェックを入れておいてください。
本設定と「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(4-39ページ)を行うことで、障害発生時でもBoot可能なパスを自動的にサーチしてOS Bootを試みます。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

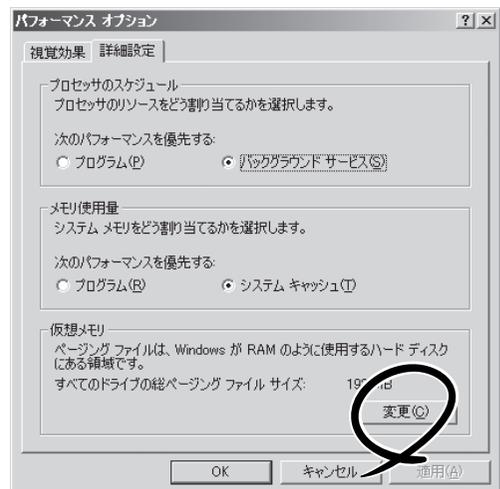
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



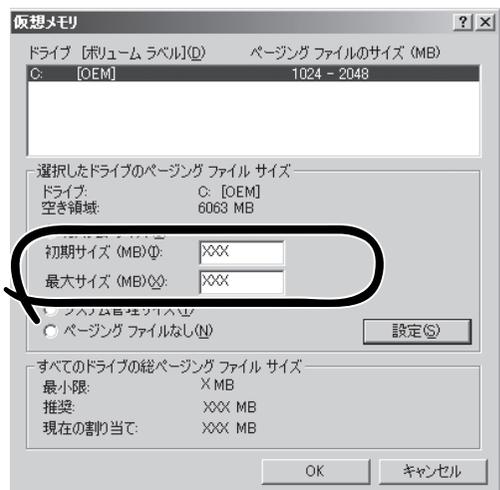
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。



重要

- 必ずOSパーティションに「推奨」値以上のサイズで作成してください。ページングファイルの「初期サイズ」を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて」(4-11ページ)を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にメモリダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

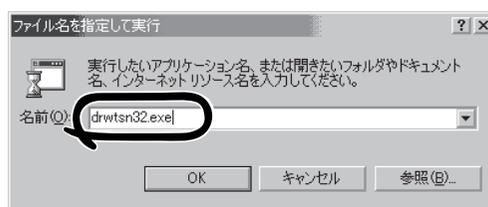
ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

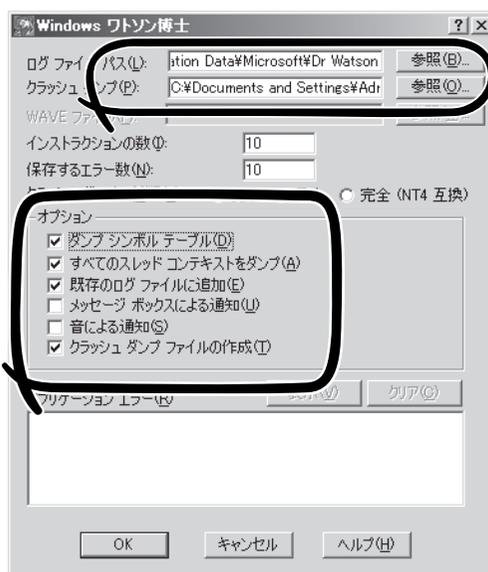
チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができま
す。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要があり
ますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

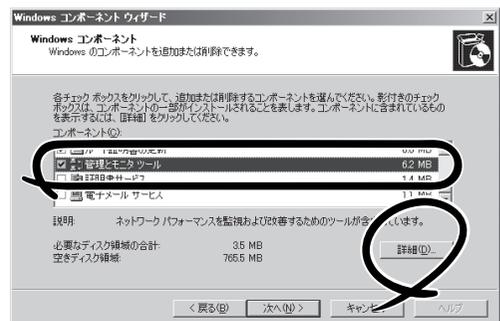
[Windows プログラムの追加と削除]のダイアログボックスが表示されます。

2. [コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

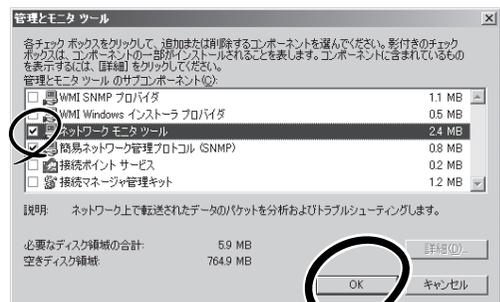
[Windows コンポーネントウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

3. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]
を選択し、画面右下の[詳細]をクリック
する。

[管理とモニタ ツール]が表示されます。



4. 管理とモニタツールのサブコンポーネ
ントの[ネットワーク モニタ ツール]チェ
ックボックスをオンにし、画面下の[OK]
をクリックする。



5. [次へ]をクリックする。

6. 「Windows Server 2003, Enterprise Edition」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従ってディスクを挿入する。
CD-ROM挿入で表示されるメニューは終了させておきます。終了させるにはメニュー画面の[×]印をクリックします。
7. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
8. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[×]印をクリックする。

ネットワークモニタは、[スタート]メニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

回復コンソールの設定



回復コンソールは、何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合に、システムの修復を行う際に使用します。

回復コンソールを使用する場合は注意事項があります。
ユーザーズガイド(セットアップ編)「6 故障かな?と思ったときは」-「システムの修復」-「Windows Server 2003 回復コンソールを使用する際の注意点」(6-2ページ)を参照し、設定を行ってください。

Step C-10 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. [EXPRESSBUILDER]CD-ROMを本装置のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して[EXPRESSBUILDER トップメニュー]が表示されます。
3. [Tools]-[Off-line Maintenance Utility]を選ぶ。
4. [System Information Management]から[Save]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

以上でセットアップは終了です。

BMC FW Update Service

BMCファームウェアのアップデートを行うためにはBMC FW Update Serviceが必要です。
次の手順に従ってインストールしてください。

1. Windowsを立ち上げ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
自動起動機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが表示されます。
2. 「ソフトウェアのセットアップ」→「BMC Online Update」の順にクリックしインストールする。



BMC FW Update Serviceはサーバ保守ユーティリティから起動します。